

NO. 40

ひも結び

1 ねらい

生活の知恵から生まれたいろいろな「結び」を習得し、野外活動でも実践できるような体験をする。

2 活動の計画

- (1) 活動期間 通年
- (2) 所要時間 1～2時間
- (3) グループ編成 一斉でもグループでも可
- (4) 活動場所 研修室や体育館 等
- (5) 準備物

[自然ふれあい館]	[利用団体]
<ul style="list-style-type: none"> ・ひも 1メートル 80本 ・ひも結びカード (写真で手順を説明) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

3 活動上の留意点

- ・ 事前に自分たちの周りで見られる結び方を観察します。
- ・ 雨天時のプログラムに適しています。

4 展開例

区分	活動内容
説明 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ねらいや概要の説明 ◎ 活動の諸注意
活動 (40分～ 100分)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 実技 (ひも結びカードや会場の掲示を見ながら) ・ 児童・生徒が興味関心をもって取り組めるよう、生活と結びついている実用的なものから実践しましょう。 ・ チェックカードなどを工夫していろいろな結びに挑戦しましょう。 ・ 長いひもによる連続結びにも取り組みましょう。
まとめ (10分) 発展活動の 時間は内容 に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 感想発表・反省 ◎ 後始末 * 発展として ・ はしごづくりをしてみる。 ・ 覚えた結び方でどれだけ長くつながられるか。(チーム対抗等)

「テグス結び」(フィッシャーマンス・ノット)



- 1 2本のロープを平行にそろえ、一方のはしをもう一方に巻く。
- 2 巻いたロープを写真のように通して結ぶ。



- 1 ロープの一方を3~4回折り返す。
- 2 折り返したロープに...



- 3 余ったロープをきれいに巻きつけていく。
- 4 最後のひと巻きにロープのはしを通してしめる。

できあがり



「棒結び」って?

5~6m程度のロープをまとめる時に適している。少年自然の家のロープは棒結びで片づけよう!



- 1 2本のロープを平行にそろえ、一方のはしをもう一方に巻く。
- 2 巻いたロープを写真のように通して結ぶ。



- 3 もう片方も同じように結ぶ。
- 4 ふたつの結び目がくっつくように強くひっぱる。

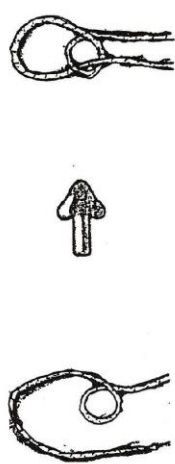
できあがり



「テグス結び」って?

つり糸をつなぐ時に使用するのでこの名前がついた。

「もやい結び」(ホーライン・ノット)



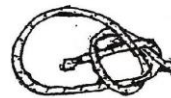
1 片方をひねって小さい輪を作る。



2 輪にロープを通す。

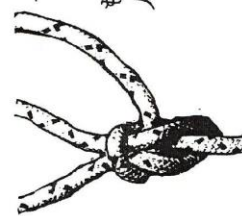


3 ロープの下を通してもう一度輪の中に入れる。



4 ロープを引いて結び目を強くしめる。

できあがり

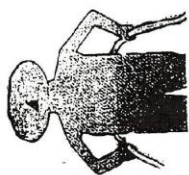


「もやい結び」って？

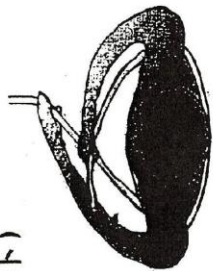
ロープの先に輪を作る結び方で、もともとは船と船をつなぐ時に使われた。人命救助結びともいう。

「一人もやい結び」①

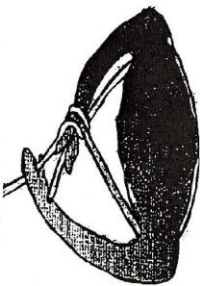
(ホーライン・ノット)



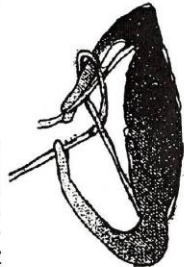
1 ロープのはしを20～30cmあまらせて握り背中に通す。



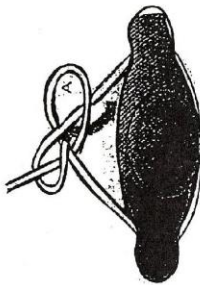
2 はしを右手で持ち、→のようにロープをにぎったま手首にからませる。



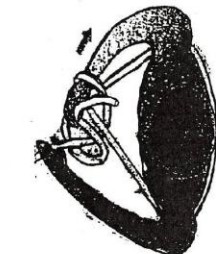
3 そのまま右手を引いて右手に輪を巻き付ける。



4 もう一度右手を左手のロープの下に通す。



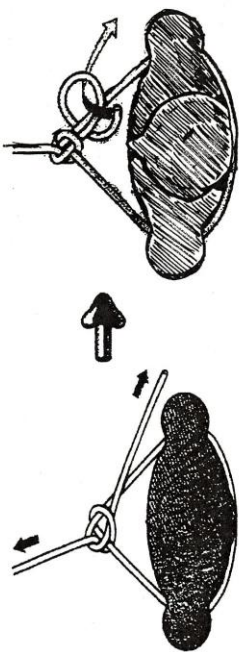
5 下に通したロープのはしを右手でつかみながら・・・



6 ロープのはしを持ったまま右手首の輪に通しながら右手をぬきとる。

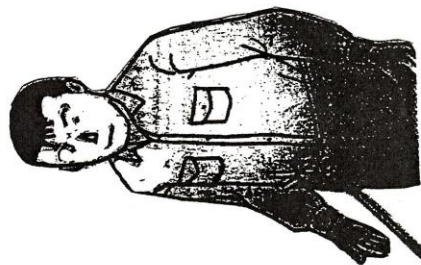
「一人もやい結び」②

(ホーライン・ノット)



1 矢印の方向にひっぱって結び目をしめる。

2 写真のようにあまったロープでさらにもう一度巻き付けるとさらに確実になる。



「もやい結び」って？

ロープの先に輪を作る結び方でもともとは船と船をつなぐ時に使われた。人命救助結びともいう。

「てこ結び」を使った縄ぼしごの作り方

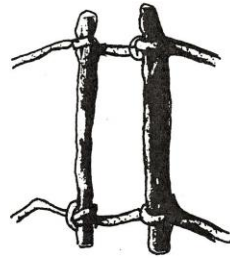
(ホート・ノット)



1 ロープを写真のように輪をつくる。
2 写真のように棒を輪に通す。



3 ロープの上下を引いてしめる。
4 これをくり返して2本のロープに棒をつなげていく。



どきあがり